

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10306

研究課題名(和文) 特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育

研究課題名(英文) Developing educational program for psychiatric nurses at special functional hospitals

研究代表者

野崎 章子 (Nosaki, Akiko)

千葉大学・大学院看護学研究院・講師

研究者番号：90361419

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：特定機能病院精神科病棟における看護実践向上をめざし教育プログラムを開発するために同病棟や看護実践の状況を明確化した。その結果、同病棟は精神科専門医は多いものの難治性精神疾患のみならず身体管理をも必要とする患者を対象としており、看護実践においては精神/心理療法に関する不十分さならびに身体的ケアと精神療法的ケアの両側面の充実や特定の疾患患者にかかる看護や安全管理等が教育ニーズであった。看護師のスキルアップでは多職種カンファレンスや研修の重要性が示された。コンピテンシー獲得に資する具体的教育内容に加え学習契機となる仕組み作りや感染症対策も加えた教育プログラム開発の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで特定機能病院精神科での看護実践の実態や教育プログラムに関して系統立った調査・研究はされておらず、同科は日本固有の施設でもあり、本研究課題の取り組みおよび成果は患者に資するのみならず、初のものであり、固有のものとなる。特定機能病院精神科は、日本における最高高度かつ最先端の看護実践提供・開発の役割を担っており、同精神科での看護実践状況や教育ニーズを明らかにすることは、準じて高度な精神科治療・看護を提供している施設や市中の精神科医療施設への移転可能性を汎用性の可能性を有しており、有益な資料となる。また、特定機能病院での知見は、日本での看護実践および教育の基準となりうる可能性を有している。

研究成果の概要(英文)：To develop an educational program aimed at improving nursing practices in the psychiatric wards of Special Function Hospitals (SFHs), we clarified the current state of these wards and their nursing practices. The results indicated that, despite the high number of certified psychiatrist, the wards cater to patients requiring not only care for refractory psychiatric disorders but also physical management. In terms of nursing practices, there were deficiencies in mental/psychological therapy, and there was a need to enhance both physical and psychological care. Additionally, the need for specialized care and safety management for specific patients was identified. The importance of multidisciplinary conferences and training for the skill development of nurses was highlighted. The findings suggest the necessity of developing an educational program with concrete content to facilitate competency acquisition, mechanisms to create learning opportunities, and measures for infection control.

研究分野：精神看護学

キーワード：特定機能病院精神科 高難度精神科看護実践 教育プログラム 治療抵抗性精神疾患 コンピテンシー

1. 研究開始当初の背景

日本の精神保健・医療は、緩徐ではあるが施設収容型から地域移行・定着が進み、かつて 500 日弱であった精神病床平均在院日数は 2016 年には 270 日前後 (厚生労働省, 2016) と短縮傾向にあるもののいまだ、世界最長であり世界的な課題となっている。その入院患者数は約 30 万人前後で推移しており、退院できない統合失調症患者の 48% 程度が、通常の薬物療法では治療効果が得られない難治性あるいは治療抵抗性統合失調症患者であると推定されている。このような難治事例への治療提供等を行うのが特定機能病院精神科であり、その殆どが大学病院精神科である。特定機能病院(以下 SFH と表記)は国が定めた要件を満たした病院のみが厚生労働省より認められ、日本における高度先端医療の開発・実践等の牽引役でもある。その多くが総合病院でもある SFH 精神科での治療・ケアは単科の精神科治療施設とは異なった広範囲かつ高難度のものである。一方、同科の看護師の特性に目を向けるとその多くはジェネラリストである。つまり同科では高度ケアでありながらも、専門看護師が行う「高度精神科看護実践」ではなく、ジェネラリスト看護師が行う「高難度精神科看護実践」であり、質担保のためにも教育が必要である。しかしながら、同科の看護実践についての実態報告や教育プログラム等の既存のものは無い。そこで、本研究課題においては、SFH 精神科における高難度精神科看護実践の向上に資する教育資源の開発を試みるものである。ひいては当事者である患者・家族、また日本の精神科医療をリードする SFH での看護実践の向上により日本全体の精神科医療に資する事を目指す。

2. 研究の目的

本研究課題においては、患者の利益に資するために、SFH における高難度精神科看護実践教育プログラム開発を目的とする。そのために、現状の高難度精神科看護実践の実態、求められる到達目標、困難および阻害・促進要因等について明らかにし、プログラムを作成・試行し評価を行う。

3. 研究の方法

本研究課題は 2018 年度より開始したが、2020 年度からの COVID-19 パンデミック下では、まさに本研究調査対象である SFH は特に救急救命とともに感染症対策の重要拠点となった。さらに、感染対策等により通常より緊張度の高い業務に従事している看護師へのアクセスは倫理的ならびに研究的観点からも妥当ではないとして、当初の計画を延期あるいは変更した。以下、変更後の研究方法について記述する。

本研究では、理論的枠組みとして Competency-Based Education 能力に基づいた教育に準じて教育プログラム作成・実施・評価をめざす 3 段階の構成とした。(1) 第 1 段階では、①SFH 精神科での看護実践の実態について明らかにした。(2) 第 2 段階では、②SFH 精神科看護管理者 (看護師長等) の認識する同科での看護実践について記述し、③ある SFH に勤務する中堅以上看護師の認識する看護実践、コンピテンシーの獲得ならびに関連要因、④既存の資料による SFH 精神科における診療概要および特性の記述を実施した。(3) 第 3 段階では前段階の成果を集約し、教育プログラム案を作成すると同時に、⑤全国の SFH 精神科看護師を対象として実践内容、コンピテンシーの状況ならびに教育ニーズについて明らかにする。⑥その結果を集約した上で、他専門家らの意見も踏まえて教育プログラム案を確定する。

4. 研究成果

上記の研究方法来示した段階ならびに番号に沿って記載する。

(1) 第 1 段階

①SFH 精神科病棟看護実践の実態調査-全国の当該病棟看護管理者対象の質問紙調査-

[目的] SFH 精神科病棟における看護実践状況を明らかにする。[方法] 対象者は SFH 精神科病棟看護管理者であり、独自に作成した無記名自記式質問紙を用いた郵送法による全数調査とした。収集データ内容は、個人属性、病棟特性、看護体制等に加え、疾患特性や法制度に係る主観的看護実践評価とした。データ収集期間は 2019 年 2-3 月であった。[結果] 回答数は 19 (回収率 25.3%)、うち有効回答数は 17 (89.5%) であり、有効回答の回答者は看護師長 15 名、精神科臨床経験年数は 1~19 年目であった。平均病床数は 35.2 (SD=9.26)、前年度平均在院日数は 44.3 (SD=14.5)、治療対象とする精神疾患は多い順にうつ病、認知症、双極性障害、統合失調症スペクトラム障害等であり、看護実践が困難な疾患は神経性無食欲症、パーソナリティ障害が最多であった。主観的評価では「できていない」看護実践は、精神/心理療法に関する 2 項目であり、比較的「できている」看護実践は患者の安全への配慮、精神科多職種チームの協働であった。SFH 精神科病棟では同年の全精神病床平均在院日数の 1/6 程度という短期加療を実現しているが、看護の対象疾患は多様かつ難治性であり、さらに神経性無食欲症等の難治性精神疾患に有効である精神/心理療法に関する看護実践が不十分であるという評価に鑑み、同療法を含む教育プ

ログラム開発の必要性が示唆された。

(2) 第2段階

②特定機能病院精神科病棟看護実践の実態調査-看護管理者対象の聞き取り調査-

【目的】SFH 精神科病棟看護管理者の認識する病棟特性、同高難度精神科看護実践の実態、看護実践上の困難および教育ニーズについて具体的に明らかにし、プログラム開発の資料とする。

【方法】全国の SFH 精神科病棟管理者を対象として半構成インタビューによる聞き取り調査を行った。調査内容は SFH 精神科病棟における看護ケアの対象とする精神疾患や治療等の病棟特性、個人的属性、看護体制、看護実践状況および困難、教育ニーズ等とした。調査時期は 2019 年であった。【結果】大学病院精神科病棟看護師長あるいはそれに準ずる看護師 7 名より研究協力を得られた。施設間での看護実践範囲や対象とする患者、学習機会や看護師の学習態度等に差異が見られた。入院の種類も様々であり SFH 自体が教育研究病院であることから医師の研究主題により疾患や入院患者、治療が特定されること等が語られた。困難および教育ニーズとしては身体管理と精神療法的看護ケアのアンバランスや、患者と看護師双方の安全確保、多職種や他機関との連携の不十分さなどが挙げられた。

③特定機能病院精神科看護師の看護実践スキルアップ要因に関する聞き取り調査-中堅以上の看護師対象-

【目的】SFH 精神科看護師の認識する精神科看護実践のスキルアップに関する要因・方法およびキャリアパス等の具体を明らかにすることを目的とする。プログラム開発の資料とする。【方法】ある 1 つの SFH 精神科病棟に勤務する精神科臨床経験年数 5 年以上の看護師を対象とした。半構成インタビューによる聞き取り調査により、人口学的属性や職歴、臨床経験、個人のキャリアパス、看護実践状況および困難、スキルアップ方法、教育ニーズ等を聴取した。さらに同病棟の看護管理者より質問紙にて病床規模や平均在院日数等の病棟特性について収集した。実施時期は 2020 年であった。【結果】ある地方の 1 つの大学病院である SFH 精神科病棟の看護師 11 名の協力を得られた。同病棟は 7 対 1 の看護基準での病棟であり、病棟から訪問看護も実施していた。自ら精神科勤務を希望してきた看護師が複数おり、他科の経験を有する看護師も複数であった。困難および教育ニーズ等は身体的処置と精神療法的看護介入の両立であり、特に他科の経験の無い看護師は身体的ケアへのニーズを有していた。スキルアップ法については病棟内における多職種でのカンファレンス、研修、学会発表等の学習機会や積極的な風土が挙げられ、それを契機として外部の研修にも自ら参加する等の内容が語られた。

④特定機能病院有床精神科部門の特性-病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究-

【目的】高度医療提供・技術開発等の役割・機能を有する SFH 精神科部門は、日本の精神科臨床実践の牽引役として、新たな知見やモデルケースの提示等が期待される。本研究は有床の同部門の特性の明確化を目的とする。【方法】既存の資料を用いた横断的研究である。2 種類の既存資料を用いた。1 つは全国の精神病床を有する SFH 開設者より厚生労働省宛に提出された 2018 年度の「特定機能病院に係る業務報告書」より、病床規模、精神科専門医数を抽出し、その規模や地理的分布、精神科専門医数の特徴等について記述した。もう 1 つは、臨床実践の範囲として当該病院の web サイトに記載・公開された情報について、テキストマイニングにより診療の対象・内容等について抽出・記述した。【結果】該当した 75 病院の精神病床数は日本の全精神病床の約 1%であり、人口あたりの分布では関東地方が有意に少ない状況であった。精神病床数あたりの精神科専門医数では、単科精神病院や他の総合病院も含めた日本全体の同数値に比し、7 倍の数値であった。臨床実践の範囲として、身体合併症を有する精神疾患患者の他、クロザピン処方や修正型電気けいれん療法、そしてコンサルテーションリエゾンなど、身体的ケアを有する診療対象・内容の記述が多く見られた。加えて多部署・機関連携等の様相が明らかとなった。

(3) 第3段階

前述の第 1 および第 2 段階の調査の結果、SFH 精神科看護実践の状況が明確となった。身体的ケアと精神療法的ケア両側面の充足が教育ニーズとなっていた。安全管理について全国調査では「できている」という評価であったが個別の聞き取り調査では困難でもあった。コンピテンシーの獲得に資する具体的教育内容に加え学習契機となる仕組み作りの必要性が示唆された。これらの考察に感染症対策も含め 2023 年度までの実施予定であった以下の調査研究については COVID-19 パンデミックおよびその影響と研究代表者の部署内異動による業務内容・量の激変があったことから、2024 年度以降の実施としている。随時、研究成果を公表する予定である。

⑤全国の特定機能病院精神科看護師の看護実践における実践内容、コンピテンシーおよび教育ニーズに関する横断的研究

⑥特定機能病院精神科看護師の看護実践向上の教育プログラム開発

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 野崎章子、森内加奈恵、小原泉、吉村健佑 | 4. 巻 35 |
| 2. 論文標題 特定機能病院有床精神科部門の特性 - 病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 総合病院精神医学 | 6. 最初と最後の頁 22 - 30 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nosaki Akiko, Noji Ariko |
| 2. 発表標題 A Comparison of the Descriptions of Culture in the Fields of Psychiatry and Nursing: A Scoping Review Protocol |
| 3. 学会等名 22nd WPA World Congress of Psychiatry (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nosaki A, Moriuchi K, Kohara I |
| 2. 発表標題 Characteristics of Nursing Practice in the Psychiatric Departments of Special Functionig Hospitals in Japan : A Cross-Sectional Study |
| 3. 学会等名 21st WPA World Congress of Psychiatry (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nosaki A, Moriuchi K, Kohara I |
| 2. 発表標題 Characteristics in and Clinical Practice in the Psychiaric Ddepartments of Special Functioning Hospitals in Japan: A Review on Annual Reports and Text-Mining of Websites |
| 3. 学会等名 21st WPA World Congress of Psychiatry (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Moriuchi K, Nosaki A |
| 2. 発表標題 Nurse-led Psychological Rehabilitation Intervention for Inpatients in the Psychiatric Ward at A Special Functioning Hospital: A Practical Report |
| 3. 学会等名 21st WPA World Congress of Psychiatry (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 野崎章子、森内加奈恵 |
| 2. 発表標題 特定機能病院精神科病棟に関する横断的研究 - 看護実践上の困難と教育ニーズ - |
| 3. 学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 野崎章子、森内加奈恵 |
| 2. 発表標題 特定機能病院精神科病棟における多職種連携 - 看護管理者を対象とする横断研究より - |
| 3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nosaki A, Moriuchi K, Kohara I. |
| 2. 発表標題 Describing the Characteristics and Scope of Nursing Practice in the Psychiatric Department of Special Functioning Hospitals in Japan - Research Protocol |
| 3. 学会等名 19th WPA World Congress of Psychiatry, Lisbon, Portugal (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 野崎章子, 森内加奈恵 |
| 2. 発表標題 特定機能病院精神科病棟の特性 - 業務報告書およびウェブサイトに関するレビュー |
| 3. 学会等名 第32回日本総合病院精神医学会総会, 倉敷 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森内香奈恵, 野崎章子 |
| 2. 発表標題 特定機能病院精神科病棟における心理社会的介入プログラム作成の取り組み. |
| 3. 学会等名 第32回日本総合病院精神医学会総会, 倉敷 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 野崎章子, 森内加奈恵, 小原泉 |
| 2. 発表標題 特定機能病院精神科病棟における看護実践状況に関する横断的研究 |
| 3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会, 金沢 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西迫みなつ, 森内加奈恵, 野崎章子 |
| 2. 発表標題 日本の看護実践におけるトークン・エコノミー法の導入と効果に関する文献研究 |
| 3. 学会等名 日本精神科看護協会千葉県支部第43回看護研究発表会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村亮太, 森内加奈恵, 野崎章子 |
| 2. 発表標題 難治性精神疾患患者への看護介入と退院支援-衝動コントロール不良に対しトークン・エコノミーを導入した症例報告 |
| 3. 学会等名 日本精神科看護協会千葉県支部第43回看護研究発表会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nosaki A, Moriuchi K |
| 2. 発表標題 Characteristics of psychiatric departments in special functioning hospitals of Japan: A mapping review. |
| 3. 学会等名 The 18th International Congress of the Pacific Rim College of Psychiatrists (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hakamada H, Nosaki A |
| 2. 発表標題 Psychiatric peer supporters' activities and difficulties in providing peer support |
| 3. 学会等名 The 18th International Congress of the Pacific Rim College of Psychiatrists (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Moriuchi K, Nosaki A |
| 2. 発表標題 A systematic mapping review of cognitive-behavioral therapy in patients with bipolar disorder |
| 3. 学会等名 The 18th International Congress of the Pacific Rim College of Psychiatrists (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|--|--------------------------------------|----|
| 研究 分担者 | 森内 加奈恵 (Moriuchi Kanae) (40817839) | 千葉大学・医学部附属病院・看護師長 (12501) | |
| 研究 分担者 | 小原 泉 (Kohara Izumi) (80266642) | 自治医科大学・看護学部・教授 (32202) | |
| 研究 分担者 | 野地 有子 (Noji Ariko) (40228325) | 姫路大学・看護学部・教授 (34534) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|